

カチオン性下地調整材 (0.5~2 mm)

カチオンプラス # 1

【施工要領書】

令和8年4月8日



二瀬窯業株式会社

用 途

適用仕上げ	クロス、塗料、仕上塗材、Pタイル、タイルカーペット、塗床、防水材
適応下地	コンクリート、モルタル、PCパネル、ALCパネル、ブロック、 既存タイル施工面 等
不陸調整	塗厚 0.5~2 mmの下地調整材

施工手順**1. 下地の確認**

- (1) 旧仕上材や下地面の脆弱層、レイタンス、型枠離型剤などの油脂分、汚れ等は、サンダー、ケレン棒又は、ワイヤーブラシ等で除去し、水洗いまたは高圧洗浄を行って下さい。

※浮き、剥落の原因となりますので、下地の清掃は入念に行ってください。

- (2) 極端な不陸・ジャンカ・豆板・大きなひび割れ・大きな気泡穴・破損部分等は予め補修を行ってください。

※補修した際には、24時間以上養生を行ってください。

- (3) 露出した鉄筋・番線・釘等は錆を除去した後、エポキシパテ等で防錆処理して下さい。

2. 吸水調整

- (1) コンクリートやモルタルなど吸水のある下地の場合は、吸水調整材ユニレックス3を水道水で3倍に希釈したものを施工面に塗布して吸水調整を行ってください。

【希釈配合】

3倍希釈液…ユニレックス3	1L	+	清水	2L
---------------	----	---	----	----

ユニレックス3 270m²/缶 (18L/缶)

- (2) ブロックやALCパネル等、吸水の激しい下地の場合は、ユニレックス3（原液）の5倍希釈液を塗布後、乾燥を待ってもう一度塗布してください。(2回塗り)

【希釈配合】

5倍希釈液…ユニレックス3	1L	+	清水	4L
---------------	----	---	----	----

ユニレックス3 600m²/缶 (18L/缶)

※ドライアウトの原因となりますので、下地への急激な吸水を調整する為に希釈倍率は厳守し、ムラなく丁寧に塗布してください。

※ブロック等、下地の動きが想定される場合は、適切なひび割れ抑制措置が必要です。

3. 材料の混練

- (1) カチオンプラス # 1 1袋 (20kg) に清水約 5.4 L を加えて機械器具等で混ざりムラのないよう均一に練り混ぜてください。

コテ仕様	調合…カチオンプラス # 1 20kg + 清水 約 5.4L カチオンプラス # 1 約 15m ² (塗厚 1mm時)
ローラー・吹付仕様	調合…カチオンプラス # 1 20kg + 清水 約 8.0L カチオンプラス # 1 約 33m ² (塗厚 0.5mm時)

※強度低下の原因となりますので、粉体と水道水の調合割合は厳守してください。

※練置きは夏期 40 分、冬期 60 分以内とし、練足し、水を加えての練り戻しは行わないでください。

4. 塗り付け

- (1) コテ塗りの場合

施工面に対してコテ圧を十分にかけてながら下地に擦り込むように塗り付けた後、所定の厚さになるように塗り付けて下さい。仕上材の種類によって、金ゴテ押さえ等を行って下さい。

- (2) ローラー塗りの場合

規定水量で練り上げたカチオンプラス # 1 をウールローラーの全体に付け、ムラなく塗り付けて下さい。

- (3) 吹付の場合

規定水量で練り上げたカチオンプラス # 1 をスプレーガン等で全体に付け、ムラなく吹きつけて下さい。

5. 養生

- (1) 通風や直射日光を避け、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシート掛け等の養生を行って下さい。また、施工後、降雨・降雪のおそれがある場合もシート掛け等の養生を行って下さい。

※強度が出ないおそれがある為、通風や直射日光により塗付け面の乾燥が激しい場合には、塗付け翌日以降に散水養生を行って下さい。

※初期の雨掛かり等は、強度不足・白華の原因となりますので、シート掛け等の養生を行って下さい。白華した場合には水洗い等により除去してから、次工程の作業を行って下さい。

※仕上材の浮きやはがれ、剥落の原因となりますので塗付け後、仕上げまでの養生は夏期 24 時間以上、冬期 72 時間以上として下さい。

注意事項

1. 寒冷期、気温が 3℃以下及び 3℃以下になると予想される場合は、原則として施工は行わないで下さい。
2. 直射日光・風雨時には、シート掛け等十分な養生をして下さい。
3. カチオンプラス # 1 の保管は、湿気を避ける場所にして下さい。
4. カチオンプラス # 1 には、当社が指定したもの以外のものを混入しないで下さい。
5. カチオンプラス # 1 硬化前の雨水等による濡れは、白華等の原因となりますので注意して下さい。